



第28回日本医療マネジメント学会学術総会  
ランチョンセミナー22

# ロボット加算15,000点時代の到来

— 投資回収を加速する「オペ室運用設計」という経営判断

日時

2026年

5月30日(土)

12:25 - 13:15

場所

ポートメッセ名古屋

H会場

コンベンションセンター4F  
コンベンションホールB



座長 **北川 喜巳** 先生  
名古屋掖済会病院 院長

演者 **坂本 育子** 先生  
山梨県立中央病院 婦人科部長

## セミナー要旨

2025年調査において大学病院の69%が医業赤字であり、日本の病院経営は深刻な局面にある。手術支援ロボットは年間固定費約8,500万円を要する一方、従来の診療報酬体系ではロボット手術加算がなく腹腔鏡と同額の報酬しか得られないため、「やるほど赤字」という構造的問題を抱えてきた。

当院では2018年のda Vinci導入初期に1日2件・セットアップ時間の延長などロボット導入時の典型的赤字パターンに直面した。この構造的赤字は個人の努力では覆せないと判断し、手術室運用全体の再設計に着手した。消耗品コスト20~30%削減、準備工程のマニュアル化による属人性排除、入替時間の短縮（40~60分→15~20分）を同時並行で実施した。その結果、追加投資ゼロで1日4~5件の手術を実現し、年間症例数は40件から280件へと7倍に成長、累計1,400例を超えた。1症例損益は赤字から黒字に転換しロボット手術の利益率は腹腔鏡を上回ることをデータで証明した。さらに2023年にはHugo RASを導入し、da Vinciで培ったチーム力の新機種への移植にも成功している。

2026年度診療報酬改定ではロボット手術加算15,000点（150,000円/例）が実現し、年間250例で約3,750万円の加算収入が見込まれる。本講演では、当院の実績データをもとに、病院経営者が「いつ・何から・どう始めるか」を具体的に提示する。機械を変えるのではなく、仕組みを変える。この発想の転換こそが、ロボットを赤字装置から収益の柱へと変える鍵である。

## セミナーの予約について

ランチオンセミナーは事前予約制となります。  
詳細は右の二次元コードより総会HPへアクセスください。  
<https://www.congre.co.jp/jhm2026/>



- ※事前申込受付期間：4月10日（金）正午～4月30日（木）正午
- ※各セミナー席数を限定してのご案内ですので、予定数に達し次第締め切ります。
- ※当日整理券の配布はありません